

「秋から春にかけての野菜づくり」

自分で種を播き、苗を植え、収穫し、旬の野菜を美味しくいただく。家庭菜園の楽しさです。

1粒のちっぼけな種から3kgもの大きなハクサイができる。感激です。キャベツの葉に小さなアオムシが……。いつの間にか葉が食べられボロボロに。悔しいです。

毎年異なる気候の変化、土の状態など解決のむづかしい問題もあり、なかなかイメージ通りには、思い描いているようにはできません。これが野菜作りです。でも、楽しく、前向きに、チャレンジしてください。

1 どの畝に何を栽培するのか？ (作る野菜を決める)

(1) 連作を避ける

毎年同じ畑に、同じ種類の野菜を作り続けると収量が落ちる、品質が悪くなる連作障害が起こります。原因は、土の劣化、^(単純化) 土壌養分のかたよりの不足、^{土壌中の微生物の単純化、} センチュウなどの害虫の増加、^{野菜自身の根から出す有害物質など} いろいろありますが、一番の原因は土壌感染性の病気です。 ^{(土壌を消毒) 対策はこれ}

連作障害を避けるために、昨年と違う種類(異なる科)の野菜を作ります。あらかじめ、何年分かの栽培計画(輪作)を作っておくのがベストです。 ^{土壌消毒(バクテリアの加工、日光消毒) → 土耕}

市民農園では、昨年借りていた人が何を作っていたのかわからないので、むづかしい問題ではあります。 ^{抵抗性品種の利用、接ぎ木苗の利用、ミストエッジをへる → 播きこむ、天日返し、有機物(たい肥)の決まり。}

(2) 輪作のための主な秋冬野菜の休載期間

休載期間	科名	野菜名
連作可能	ユリ科	ネギ類、タマネギ、ニンニク、 ^{ワフキ}
	アブラナ科の菜類	コマツナ、ミズナ、シロナ等
	キク科	シュンギク
1年間	アカザ科	ホウレンソウ
	セリ科	にんじん、パセリ
2年間	アブラナ科	キャベツ、ハクサイ、ダイコン
	キク科	レタス
3~4年間	マメ科	ソラマメ、エンドウ
	バラ科	イチゴ
	ナス科	ジャガイモ ^(何年かおける)

資料によって多少の休載期間が異なることがあります。栽培計画は3~4年の輪作で立てるとわかりやすくできます。

戦争中に学校のグラウンドでも作っていたというサツマイモは連作可能な野菜の代表ですが、4年、5年と作り続けると、やはり収量が落ちてきます。

(土壌改良剤)
 ☆ 元肥 (有機物) ————
 かんじ (干草) 30kg
 けいごん (けいごん) 米ぬか

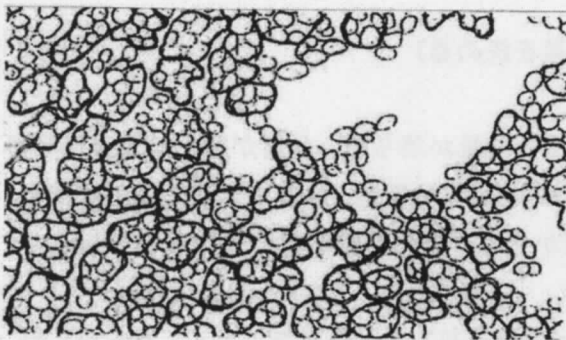
2 畑の準備・畝立て

(1) 土作りと元肥

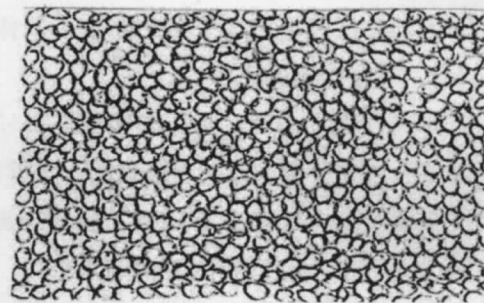
よい土（地力のある土）とは団粒構造の土です。物理性は通気性・排水性・保水性があること。化学性は肥料成分があること。生物性は多種多様な土中生物や微生物があることです。

この土を作るためには、たい肥（有機物）を畑に多く投入することです。輪作の計画を立てるのが困難な市民農園の連作障害を少しでも軽くする方法です。

たい肥（有機物）は1㎡当たり3~4kgを入れます。たい肥は牛糞たい肥、パークたい肥、腐葉土などがあります。



地力のある土（団粒構造）



地力のない土（単粒構造）

モミガラは、もっともよい有機物ですが、生のモミガラは分解が遅く、分解するために土中のチッソ成分が使われ、畑の野菜がチッソ養分不足になります。肥料として野菜分+モミガラ分解分のチッソ肥料が必要です。また、トウモロコシや麦などのイネ科作物を栽培し、収穫後に茎葉を細かく切って土中に入れると、1ヶ月くらいで分解され、有機物として利用できます。

元肥は有機物を投入するときと一緒にに入れて耕やします。有機物としてのたい肥や腐葉土はチッソ・リン酸・カリなどの栄養分はわずかしかありません。肥料よりも土作りに役立てると考えます。別に元肥として、乾燥牛糞・乾燥鶏糞・油粕などの有機肥料や化学肥料を施用します。

有機物は土中のミミズなどの生物や分解微生物が分解します。有機物投入や元肥は、野菜の植え付け1ヶ月前くらいには済ませておきます。

(2) 酸度調整

野菜の種類によっても異なりますが、生育に適した土の酸度は、大半の野菜が弱酸性~中性となっています。日本の土壌は酸性土壌が多いため石灰を加えて酸度を調整します。

石灰は植え付け1~2週間前に散布し耕します。特に消石灰は散布後に放置すると固まってしまうので、すぐに耕し土と混合します。

石灰の種類と施用量

種類	アルカリ分	施用量 (1㎡当たり)	備考
消石灰	65~72%	50~60g	
苦土石灰 (くどせかい)	55%	100~150g	苦土 (Mg) 16%
かきがら石灰 (有機)	47%	100~200g	微量元素を含む

不足可成り
黄色い

土の酸度と野菜 pH (酸性 1 ← 中性 7 → アルカリ性 14)

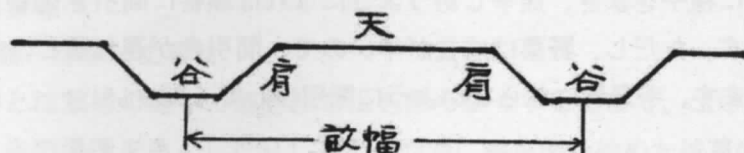
pH	酸性に	野菜
6.0~7.0	弱い	ホウレンソウ・エンドウ・タマネギ
5.5~7.0	やや弱い	キャベツ・ブロッコリー・レタス
5.2~7.0	やや強い	ハクサイ・ダイコン・カブ・ニンジン
4.8~7.0	強い	サツマイモ・ジャガイモ・サトイモ

石灰不要

(3) 畝立て

雨の多い日本では畑が過湿にならないように畝を立てます。石灰散布後から植え付けまでの間に行います。

標準となる畝幅は1.2mですが、作る野菜の種類や条数によって畝幅は変わります。野菜にとってはゆったりとした広い畝が望ましいのですが、市民農園ではこれもむづかしい問題です。うねの高さは、水分の多い過湿の畑は高畝に、乾燥しやすい畑の畝は低くします。また、コマツナなどの菜類の畝は、畝の天を水平にします。(下図は畝の名称)

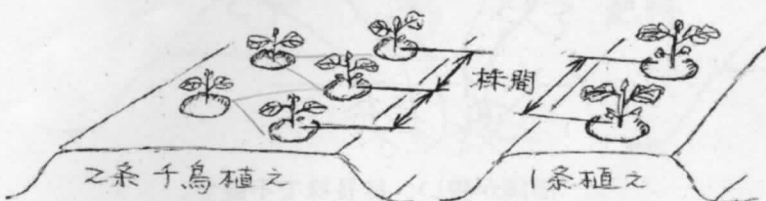


3 定植と播種

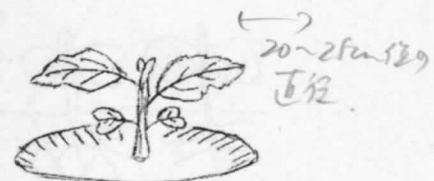
(1) 定植

野菜苗を畑に植え付けることを定植といいます。キャベツ、ハクサイ、ブロッコリーなどの大型になる野菜は、畝幅1.2m以上では株間40~50cmで2条の千鳥植え、狭い畝では株間40~50cmの1条植えとします。

定植時に水鉢 (ウォータースペース) を作っておくと、活着までの間のかん水は水鉢の中だけで済み、合理的で省力化となります。



畝幅 1.2



水鉢

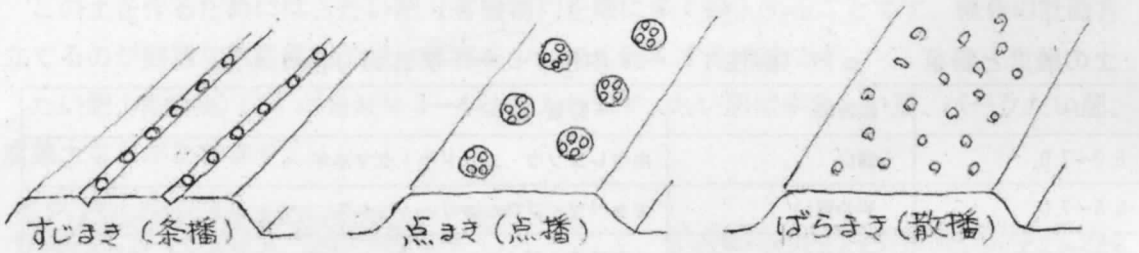
水鉢の土は
(掘って1weekほど大又)
畝に埋め戻す

(2) 播種と間引き

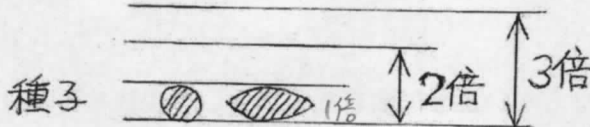
① 播種

種を播くことを播種といいます。方法は次の3つがあります。

- ・すじまき (条播) ホウレンソウ、コマツナ、ニンジンなど。
- ・点まき (点播) ハクサイ、ダイコンなど大型の野菜など。
- ・ばらまき (散播) タマネギなどの苗作りで行う。



・覆土 種の厚みの2~3倍量の土をかける。
ふしじ



② 間引き

◎ 間引きをする理由

小さいうちは共存・大きくなれば競争

発芽してしばらくのうちはお互い寄り合っているほうが、気象変化の影響も小さくてよく育つが、葉が重なり合うようになると、お互いじゃまをしあうようになる。

はじめはやや厚めに種子をまき、競争しあうようになれば順番に間引きをして育てるのが一番良い方法です。ただし、野菜は成長が早いので、間引きが遅れると、すぐに込み合い、軟弱徒長します。手遅れにならないように間引きしてください。

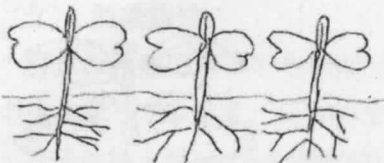
★ 発芽直後



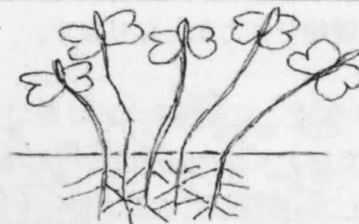
寄り合って共存。生育良い。

離れている。生育悪い。

★ 少し大きくなると



適当な間隔。健全株。



間隔が狭い。徒長株で不健全。

ひやうたね

◎間引きをする株

育ちぐあいや葉形でよい株を選ぶ

間引く株は、残す株は？

- ・子葉は左右対称でよくそろい、きれいなハート形のものを残す。 *子葉が揃っている*
- ・病虫害におかされている株は間引く。
- ・極端に小さな株、大きな株は間引く。

4月24日 水曜日にやる

③種子の寿命と保存

去年買った種子は、一昨年買った種子は発芽するのかしら？よく経験することです。常温での種子の寿命は次の通りです。(一応のめやすです)

1年	シソ、ネギ、タマネギ、ミツバ、ニラ、ラッカセイ
2年	キャベツ、レタス、トウガラシ、ホウレンソウ、ゴボウ、エンドウ、トマト、インゲンマメ、トウモロコシ
3年	ダイコン、カブ、ハクサイ、ツケナ類(コマツナなど)、カボチャ、ニンジン
4年以上	ナス、キュウリ、スイカ、オクラ、ソラマメ、アズキ、シュンギク

使用しなかった種を袋に戻し、セロテープなどで密封すると、発芽3条件の水分と酸素を与えない。さらに冷蔵庫に入れると温度も含めて3条件とも発芽できないものになり、表よりも長く保存できます。(発芽の3条件は温度・水分・酸素です)

ネギなど1年のものは1年以内に使い切る方がよいでしょう。

*ラッカセイ(水曜日にやる)
10月13日、2日、
青木土曜日は、これにて又又*

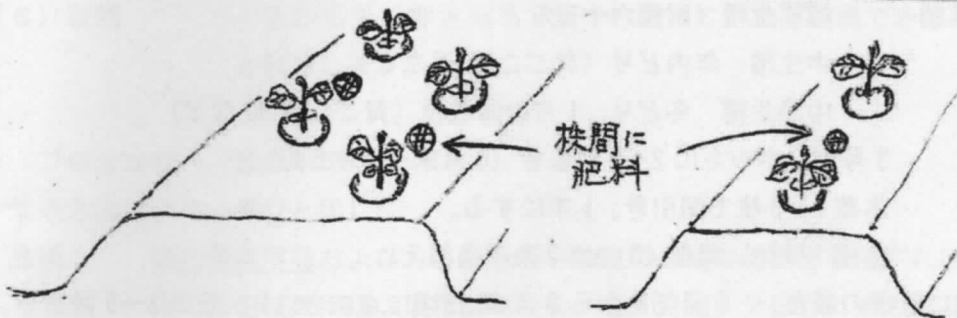
4 栽培管理

① 中耕・除草・土寄せ

中耕とは栽培の途中で畝を耕し土を柔らかくすることで、土中に空気が入りやすくしたり、水の浸透を良くしたりします。同時に芽を出し始めた雑草の根を切る(除草)。土寄せは中耕などで谷に落ちた土を畝の天や肩に戻すことです。

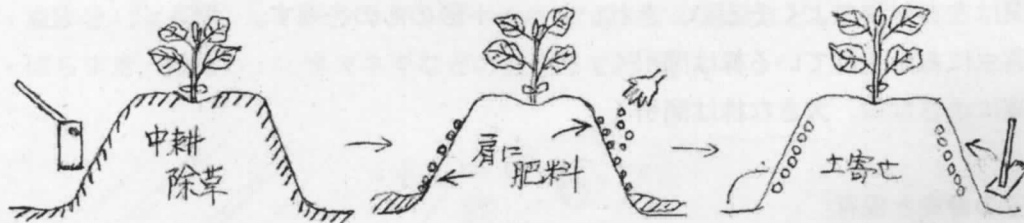
② 追肥(キャベツやハクサイなど大型野菜)

1回目 株間に速効性の化成肥料(8-8-8化成など)を一ヶ所に一握り(約40g)施します。



*水曜日に直接入れたい
2月7日*

2 回目 定植 2~3 週間後に畝の天を^{こぼし}手万能で、谷と肩を万能グワや平グワなどで中耕します。肩に速効性の化成肥料一握りを 40~50 cm の幅に施し、谷に落ちた土を肩に戻します。(土寄せ)



☆肥料のやり方の基本

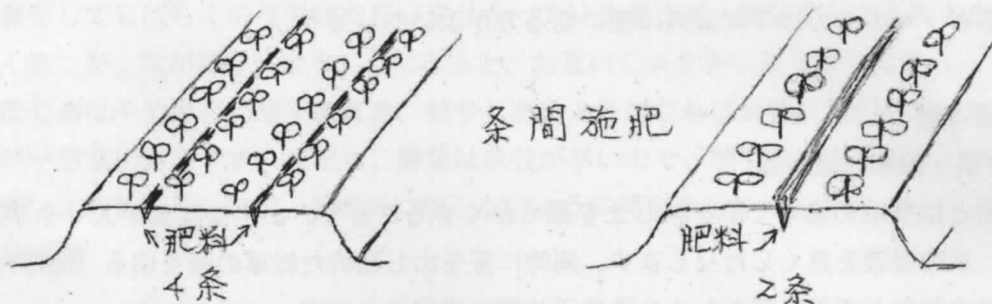
野菜の根がこれから伸びていく所に置きます。根の真上など肥料が直接根に触れるようなやり方は根を傷めます(肥やけ・肥あたり)。

化成肥料の数字(8-8-8など)は、前からチツソ、リン酸、カリの成分量(%)を表しています。

③ 追肥(ホウレンソウ、コマツナなどの菜類)

最終間引きの時に手万能で条間や肩、谷を中耕・除草します。

条間のうち中央を除く左右の2本の条間に溝を作り、肥料を入れ、土を戻します。肥料を葉の中に入れてないように注意してください。コマツナなど菜類の追肥は1回です。



5 主な野菜の作り方

◎葉菜類

1 ハクサイ(連作不可)

- (1) 主な品種
 - ・極早生種(耐病六十日など)
 - ・中生種 年内どり(黄ごころ85など)
 - ・中晩生種 冬どり 1月以降収穫(黄ごころ90など)
- (2) 育苗 3号ポリポットに2~3粒まき(8月末~9月上旬)
本葉2~3枚で間引き、1本にする。
- (3) 本畑 畝幅120cm、株間40cmで2条千鳥植え。
- (4) ○本畑に直播の場合 9月初めから9月20日頃に点まき。1ヶ所に3~5粒まき。
○苗の定植の場合 9月上~下旬に本葉4~5枚で定植。